

▼エゾオヤマリンドウとネバシノギラン



8月20日
八幡平で
秋のお花を
見に来たよ!



8月に入ったら、
八幡平はもう秋。

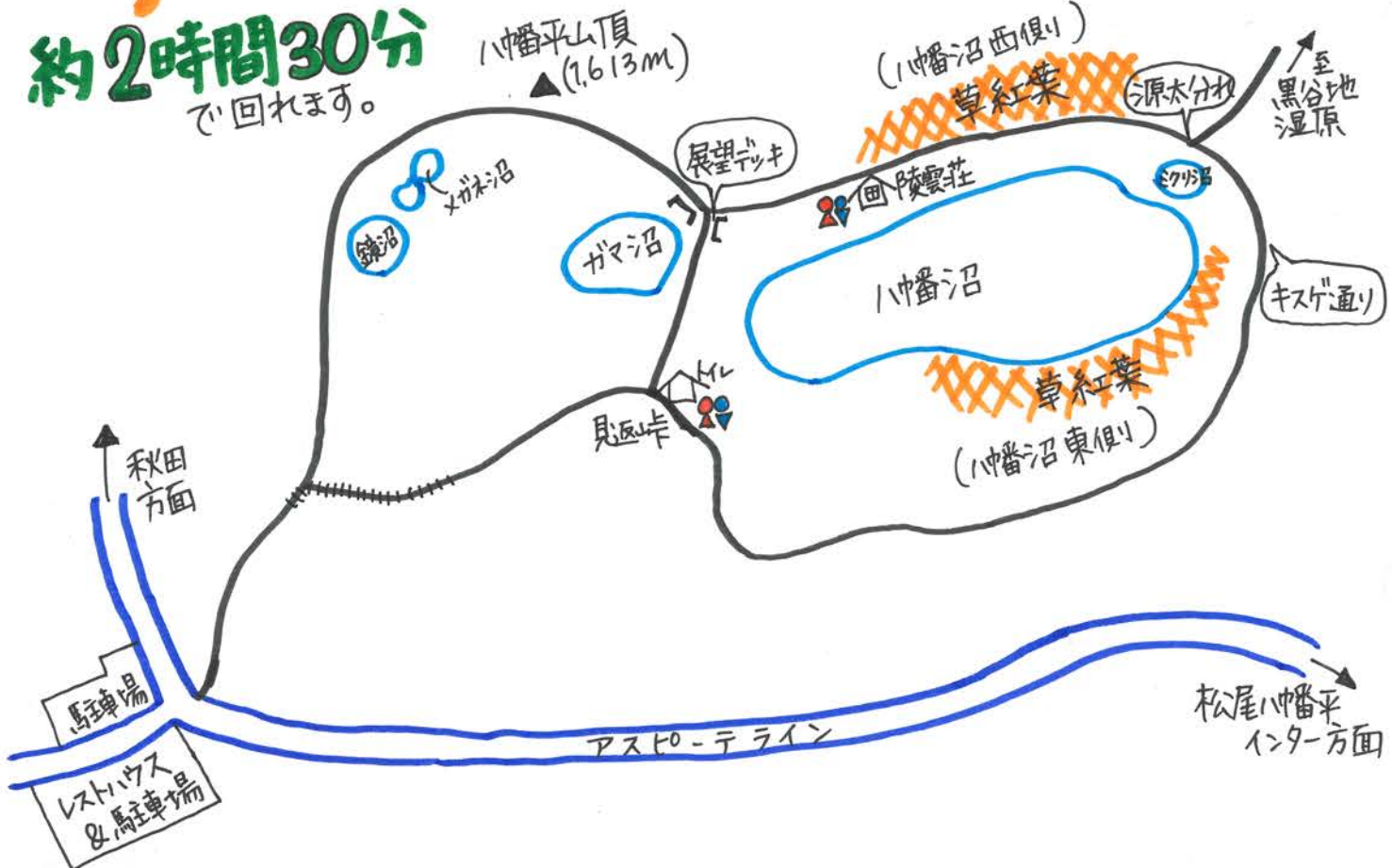
高山の夏はあっという間に
過ぎていきます。
湿原では早くも草紅葉が
しはじめました。
草紅葉の見頃は9月上旬
～中旬。そのころには
お花は殆ど見られなく
なります。
エゾオヤマリンドウ、アザミ、
アキノキリンソウ、ウバチソウ...
秋を代表するお花たちの
見頃は8月末くらい
までです。

▲ ピンク = アオモリアザミ
白 = ミヤマセンキュウ
青 = エゾオヤマリンドウ

今日のコース

約2時間30分で回れます。

レストハウス → 鏡沼 → Xガネ沼 → 山頂
 → ガマ沼 → 陵雲荘 → 源太分岐 → ミクリ沼
 → キスゲ通り → 見返峠 → レストハウス



▼トリカブト



きれいな花には毒がある? トリカブトのおはなし...

トリカブトの根を乾燥させたものは「附子」(ぶす又はぶし)と呼ばれ、体を温めたり、下痢の作用がある漢方薬として使われます。附子は昔から毒薬としても有名で、狂言や一休さんのおはなしに登場します。

昔話『附子』

ある家の主人が、貴重な砂糖を使用人に食べられないよう、「これは猛毒だから近づいてはならない」と言いかざしておりました。主人が留守にしたある日、使用人は砂糖をすべて食べ、主人が大切にしていた茶碗を割って、主人の帰りを待っていました。驚いた主人が理由を問うと、使用人は「ご主人様の大事にしていた茶碗を割ってしまったので、附子の毒で死んでおわびしようと思いました。が、まだ生きております」と答えたそうです。



▲ミヤマアキノキリンソウ

夕キボウシ ▶
 擬宝珠(ぎぼし)とは、昔ながらの木造の寺院や橋の欄干の柱の上に腐食の防止&飾りとして付けられる金具のこと。
 花の形がこのぎぼしに似ていることからギボウシという名前が付いたそうです。



エゾヤマリンドウ ▶



▲ニッコウキスゲの種



ほんとはピンク色
アルビノの
 アオモリアザミ
 アルビノとは(植物では)突然変異で色素を作れなくなっていた個体のこと。色素がないので白っぽくなります。アザミの他にも色々なお花に見られます。Iizumi PlateauからGama no Umiに続く遊歩道沿いではアオモリアザミのアルビノを見ることができます。



▲シロバナトウチソウ



▲ヤマハコ



▲イブキゼリモドキ

八幡沼東側 早くも色付きはじめた湿原



ナナカマドの実も色づき
はじめました。この写真の
実は ウラジロナナカマド。
もう一種類のタカネナナカマドは
ひとまわり小ぶりで
真赤な実をつけます。
小鳥の口には合わないようで
秋遅くとも残っています。



くさもみじ

草紅葉って...?

草紅葉 (くさもみじ・くさこうよう) とは 読んで字のごとく、
木の紅葉に対して、草の紅葉のことです。八幡沼の山頂
付近には紅葉する木が多くありません。その代わりに、
イネ科植物やイワイチョウの葉、チングルマの葉、高山
植物の種などが色づいて 沼のまわりを彩ります。
8月中旬から色づきはじめ、見頃は9月上旬~中旬です。

